

第154回 MINERVA ビジネスプラン発表会

【平成26年2月12日(火)開催 会場:(株)PALTEK 11階セミナールーム】

1. ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社 代表者 中石 真一路 氏 (<http://u-s-d.co.jp/>)【住所】東京都港区海岸1-7-8 東京都立産業貿易センター浜松町館6階
【設立】2012年4月 【資本金】7,500千円

【事業概要】NPO 法人ユニバーサル・サウンドデザインにて、2011年代から研究開発が進められてきた「Listening Assistive Technology LAT™」を用いた聴こえ支援機器店舗PA向け音響機器の製造・販売を行う企業です。難聴者の聞こえを話者側で改善するコミュニケーション・サポートシステム「COMUOON」(コムーン)を2013年12月24日に製品化をスタートしました。佐賀県を中心とした九州エリアの行政の導入や病院での導入が進んでいます。

※東京都立産業技術研究センター共同研究対象事業採択
※平成25年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択
※平成25年佐賀県第2回トライアル発注製品選定

【コメント】「難聴」と聞くとどうしても補聴器のイメージを持ってしまいます。しかし実際に補聴器がどのくらい利用されているかを調べてみると14.1%だけだそうです。それは補聴器をすることに対する恥ずかしさ、装着時の聴こえの違和感、良いものは高価であることが原因のようです。そして当社は難聴者の聞こえにくさの原因は、①音の明瞭度、②音の指向性、③音のレスポンスの3点にあることを発見し、振動エネルギーを出来るだけ壊さずに再現し、増幅させる技術を開発されたそうです。

2. ビーゴ株式会社 代表者 鈴木 暢晃 氏 (<http://www.vigo.co.jp/>)【住所】東京都中央区日本橋茅場町1-6-3 山楽ビル2階
【設立】1992年2月 【資本金】65,000千円

【事業概要】当社は空気中の酸素を原料に高濃度の酸素を供給する「酸素発生器」を民生品として製造販売しています。酸素は人間の生存に不可欠である一方、空気中に当たり前に存在しているため、あまり重要視されないのが現状です。しかし高齢化社会が進行する中で酸素発生器を片時も離せないHOT(在宅酸素療法)患者が日本に約15万人、COPD(慢性閉塞性肺疾患)患者が約34万人、それらの潜在患者が約500万人と言われており、その他にストレスや生活環境の悪化、運動不足等により酸素欠乏症に陥る、いわゆる成人病も蔓延しているとされます。そうした背景がある中で当社製品の「Oxy's(オキシーズ)」は酸素を自力で取り入れにくい呼吸患者はもちろん、健常者にも必要な酸素を高濃度で供給します。当製品はいつでもどこでも誰もが手軽に利用出来るよう小型・軽量化に努め、可搬性を実現した高濃度酸素発生器です。今後は酸素発生器のさらなる小型化、高品質化、低価格化を目指し、世界的な規模で販売網を構築していきたいと考えています。

【コメント】高濃度酸素を発生させるには、発生器のカートリッジの中身に秘密があるそうです。当日、高濃度酸素を吸う前と吸った後ではどのくらい血流の量が違うかというデモを見せて頂いたら、たった数分にも関わらず、吸った後の方が血流が活発になっていました。実際にスポーツで疲労した後にも体験したところ、翌日には心身ともにスッキリしていました。



3. 株式会社クレオ・バイオサイエンス 代表者 岡本 将 氏 (HP準備中)

【住所】神奈川県横浜市中区元浜町3丁目21番2号 ヘリオス関内ビル
【設立】2013年7月 【資本金】2,000千円

【事業概要】再生医療用の細胞培養装置ならび再生治療に使用する細胞医薬品を開発しています。競争優位となる強味は幹細胞やiPS細胞と呼ばれる細胞を培養し、立体的な生体組織、臓器を造りだす、立体的細胞培養システム(3Dバイオプリンティング法)という独創技術を採用した装置にあります。培養装置の基本技術は京都大学再生医科学研究所、理化学研究所、東海大学工学部、慶應大学理工工学部の特許を活用し、各研究機関と共同研究開発を実施中です。この装置を世界で最初に実用化することでこれまでに治療が難しいとされてきた腎臓病や糖尿病、肝臓病、膵臓病や血管の病気など、痛んだ臓器の再生治療が可能になると期待されています。今後は研究用途の培養装置販売を先行し、併せて医療用培養装置としての開発を行います。医療用培養装置には微細金属針や小型の金属製細胞タンク、培養器温度制御部品、温度・PH・栄養成分等のモニタリング用各種センサー、細胞可視化センサー等の組み込みが必要なため、これらを製造していただけるパートナーと共に開発を進める計画です。

【コメント】現在、一人あたりの治療に使用する再生細胞は約10カ月の細胞培養期間と約5000万円の費用がかかるそうです。従来の「細胞シート法」だと2~3枚目のシートに酸素が届かず、血管が死んでしまうようなのですがこの「3Dバイオプリンティング法」だとその心配がなく、効率的に培養が可能になるそうです。今秋の薬事法改正により、再生細胞は細胞医薬品に位置づけられるので展開がしやすくなり、将来的にはIPOも視野に入れられているそうです。



会場風景

《感想》

今回のビジネスプラン発表会は会場が満席になるほど多くの方々にご出席を賜りました。発表企業3社は広い意味で『ライフイノベーション』分野の技術をお持ちになられており、それぞれ今後の活動に期待が持てる内容でした。

☆☆☆☆ 今後の活動予定 ☆☆☆☆

第155回 MINERVA ビジネスプラン発表会

次回の開催は下記の日時を予定しております。

発表企業等の詳細は、後日、改めてご案内させていただきます。

■日時:平成26年3月11日(火) 13:30~16:00 (発表後、交流会)

■会場:学校法人岩崎学園 新横浜1号館8階

(http://www.iwasaki.ac.jp/access_shinyoko.html)

横浜市港北区新横浜2-4-10

NPO 法人ベンチャー支援機構 MINERVA

TEL: 045-470-8668, FAX: 045-470-8090

(株)TNP パートナース、(株)TNP オンザロード

TEL: 045-470-8088, FAX: 045-470-8090 井 汲